

## 第14回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 山内重徳）の審査を経て平成24年2月28日（火）に開催された第7回理事会において慎重審議の結果、以下の3名の授賞を決定、第122回春期大会第1日目の5月19日（土）に九州大学において表彰式を挙行政した。

受賞者 石川 和徳 君 古河スカイ株式会社 技術部 主査 昭和27年6月6日生（59歳）

### 受賞理由



石川和徳君は、1975年に古河電気工業株式会社に入社し、古河アルミニウム工業株式会社技術研究課において長年にわたりアルミニウム接合、熱交材料開発、腐食研究に従事し、高強度、高耐食性アルミニウムラジエータやカーエアコン材料に関する開発成果を残した。1991年に同社市場開発部に異動し、自動車ボディシート材料の拡販に従事、その後1994年に古河電気工業株式会社メタル総合研究所、2000年に同社軽金属事業部技術部、2003年から古河スカイ株式会社技術部において、アルミニウム合金の研究を精力的に継続した。現在は同社技術部主査として後進の指導に当たり、多くの有為な人材の育成に力を発揮している。

また、技術情報誌「古河スカイレビュー」企画・編集を行い、軽金属学会関係者にアルミニウム材料に関する情報提供を継続している。軽金属学会では2000年から総務委員、関東支部運営委員を務め、2002～2003年企画委員、2007年から広報委員として活躍し、評議員、小山田記念賞選考委員としても力を尽くし、学会の発展に大きく貢献した。この間、軽金属学会の多くの講演大会において実行委員を担当し、第113回秋期大会では実行委員幹事、第115回秋期大会では実行副委員長として、実質的に講演大会を取り仕切る役割を果たした。関東支部の運営においても、若手育成のためのポスター・講演発表や種々の講演会行事の遂行などに、余人に比しがたい貢献をした。

以上の功績は極めて顕著であると認め、ここに軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 三久保 滋 君 九州三井アルミニウム工業株式会社 技術顧問 昭和24年5月16日生（62歳）

### 受賞理由



三久保滋君は、長年にわたり軽金属学会の活動に携わり、同会の発展に技術開発と学会運営で大きく貢献してきた。铸造凝固部会およびアルミニウム溶湯と耐火物に関する研究部会では、1997年から2011年まで14年間、研究部会活動で中心的な役割を果たした。铸造凝固部会の活動での業績として、結晶粒微細化技術の開発があげられ、結晶粒微細化メカニズムおよび結晶粒微細化剤の種類やその効果等についての試験調査を行い、その技術向上に貢献した。アルミニウム溶湯と耐火物に関する研究部会での活動での業績としては、耐火物によるアルミニウム溶湯の汚染挙動と評価法の確立、アルミニウム溶湯の汚染挙動に及ぼす不定形耐火物組成の影響の解明、Al-Mg合金溶湯と硫酸バリウム添加物の濡れ性および反応性の解明等があげられ、アルミニウムの溶解工程における耐火物による汚染の挙動やその汚染を防止するための耐火物への添加材の有効性と汚染メカニズムについての研究を行い、耐火物からのアルミニウム溶湯の汚染とその防止策に関する有益な情報提供を行ってきた。

学会運営においても貢献が大きく、九州支部評議員および理事を2005年から2011年まで約7年間務めた。さらには平成21年から高橋記念賞選考委員を務め、長年にわたって軽金属学会の活動に貢献した。

以上の業績・活動は、本学会の発展に極めて大きく貢献したと認められ、ここに軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 山下 友一 君 三協マテリアル株式会社 執行役員 昭和29年8月19日生（57歳）

### 受賞理由



山下友一君は、20余年にわたりアルミニウム合金の押出ならびに铸造に関する技術開発に携わってきた。中でも小径ピレットの開発に当たっては実操業に活かす技術開発に成功して、商標名「TG-bar」として量産を行った。TG-barはピレット内部の組織および元素分布が非常に均質であり、主に鍛造用素材として開発されたものである。「TG-bar」はその後、自動車の鍛造サスペンション部品や鍛造ピストン等、多くの分野に展開され、年間約1500tの販売に至っている。さらに2003年より当時研究開発中のマグネシウム合金押出に兼務として従事し、中国に赴いて品質改善、調達、共同研究を主導した。あわせて、社内ではマグネシウム合金の開発および合金ピレットの製造プロセスを独自に開発すべく、旧富山合金㈱内に独創的なマグネシウム合金ピレット铸造システムの試験ラインを導入し、実稼働の基礎を築き、年産500tの国内唯一のマグネシウム合金ピレット生産工場の稼働を成功させた。さらにNEDOやJST等の産学連携事業においても積極的に参画し、主導的役割を果たしている。

同君は社内における人材育成、とくに若手技術者の育成にも力を注ぎ、後継技術者の活動の場を本学会において、その能力の練磨を行っている。さらに2001年からは本会北陸支部の幹事として支部運営に多大の尽力をし、加えて2007年富山で開催された講演大会の実行委員として軽金属学会の活性化に積極的に参加している。

以上のように、同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。